

# 令和7年度 第1回 八尾市地域ケア連絡協議会 会議資料

## 資料1 令和6年度地域ケアケース会議報告

- ◇ 地域ケアケース会議合同定例会 … P.1
- ◇ 地域ケアケース会議発言要旨 … P.2 ~ 3
- ◇ 地域ケアケース会議随時会議 … P.4 ~ 7

## 資料2 令和7年度地域ケアケース会議について

- ◇ 地域ケアケース会議の体制 … P.8
- ◇ 地域ケア会議の方向性 … P.9
- ◇ 地域ケア会議 年間予定表 … P.10

## 資料3 令和6年度高齢者虐待について

- ◇ 養護者による虐待集計（概要） … P.11 ~ 13
- ◇ 虐待の発生に影響を与えたと思われる要因 … P.14

## 資料4 令和6年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書 令和7年度八尾市認知症地域支援推進員設置事業計画書 令和6年度認知症初期集中支援事業実施報告書 令和7年度認知症初期集中支援事業計画書 チームオレンジ活動について

… P.15 ~ 24

## 資料5 令和6年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書 令和7年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施計画書について

… P.25 ~ 27

## 令和6年度 地域ケアケース会議合同定例会

### 第1回地域ケアケース会議合同定例会

開催日時： 令和6年5月23日（木） 14:00 ～ 16:00  
開催場所： 八尾市文化会館プリズムホール レセプションホール

内 容： （1）令和5年度第2回 地域ケア連絡協議会の報告及び  
令和6年度地域ケアケース会議の方向性について  
（2）地域ケアケース会議の事務局紹介  
（3）合同学習会  
①令和5年度高齢者あんしんセンターの取り組み報告  
テーマ「コロナ禍からのリスタートについて」  
報告者：龍華中学校区高齢者あんしんセンターリゅうげ  
亀井中学校区高齢者あんしんセンターホーム太子堂  
久宝寺中学校区高齢者あんしんセンター久宝寺愛の郷  
テーマ「特殊詐欺について」  
報告者：成法中学校区高齢者あんしんセンター長生園  
曙川中学校区高齢者あんしんセンターサポートやお  
高美中学校区高齢者あんしんセンター成法苑  
②八尾市認知症地域支援推進員活動報告  
テーマ「オレンジミーティングについて」  
報告者：八尾市認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏

対 象 者： 八尾市地域ケアケース会議委員  
参加人数： 101名

### 第2回地域ケアケース会議合同定例会

開催日時： 令和7年2月20日（木） 14:00 ～ 16:00  
開催場所： 八尾市文化会館プリズムホール レセプションホール

内 容： （1）令和6年度第1回地域ケア連絡協議会の報告  
（2）合同学習会  
テーマ「八尾市で想定される自然災害と自主防災の必要性について」  
講 師 八尾市危機管理課職員  
  
テーマ「地域防災力の向上について」  
講 師 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科  
准教授 澤田 雅浩 氏

対 象 者： 八尾市地域ケアケース会議委員  
参加人数： 80名

# 令和6年度 地域ケアケース会議 発言要旨

ブロック	北部(第1圏域)	西部(第2圏域)	南部(第3圏域)
事務局	重振苑・スローライフ北・スローライフ八尾	りゅうげ・ホーム太子堂・久宝寺愛の郷	乗寿・あおぞら・緑風園
テーマ (事例検証)	「重層的支援体制整備事業—地域としてどう支えていくか—」	認知症に理解のある地域づくり	事例から深める8050問題へのかかわり ～誰がどのタイミングでかかわるのか～
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑化、複合的課題があるケースが増え多分野での対応を要することもある。住み慣れた地域で住み続けるためには、地域全体の能力を高めることが必要となる。</li> <li>・高齢者増加に伴い、専門職だけで全ての支援を行うのは困難。地域住民の担い手不足が深刻。</li> <li>・コロナ禍で地域活動が停滞し、民生委員の欠員増加も課題。「共助」のために頑張った結果、「共助死」になっては意味がない。支援者の自己犠牲と善意に頼るやり方ではこの先成り立たない。新たな支援者の発掘や支援方法の模索が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症本人や家族の病識理解が低いと支援が複雑化する。</li> <li>・診断後に介護保険サービス等に繋がらず、見守りや支援が途切れるケースがある。</li> <li>・詐欺被害やボヤ騒ぎ等の地域を巻き込んだ課題がある。</li> <li>・金銭管理の問題が多く、身寄り不在や債務がある場合の支援が困難。</li> <li>・成年後見制度や日常生活自立支援事業等の公的制度に繋がるまでの期間があり、その期間中の支援に課題がある。</li> <li>・日常生活自立支援事業の契約に至るまでの過程で、意思が揺れ動くケースがある。</li> <li>・本人の意思がないと申請等の支援が滞るケースがある。</li> <li>・見守りを行う時の役割分担等が曖昧になるケースがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例①90代の母親と60代の娘の同居。娘に精神疾患があり、介護サービスが必要な母親への介入ができなかった事例。</li> <li>・事例②90代の母親と50代の息子の同居。息子が生活困窮や介護負担を発信できず、結果的に虐待に至った事例。2事例を検討。</li> <li>・共通課題：子が精神疾患や学習障がい、の診断を受け、正常な判断ができず、SOSのサインを出すことができなかった。</li> <li>・事例①娘が支援者の介入を拒み続けた為、母親への介入の遅れ</li> <li>・事例②はケアマネジャーや、生活保護も受給していたが、臨時収入により、生活保護が打ち切りになり、所持金がなくなつた時、再受給になくがれず、生活困窮や介護負担の状況の把握が遅くなった。</li> <li>・重層的支援、多職種連携のために、学習会を開催。障がい福祉課、つなげる支援室の話を聞き、連携方法を学んだ。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民は誰もが地域づくりの一員であり、支援が届かない人に対してでできることがある。</li> <li>・地域活動の中には、コミュニケーションのような、社会的孤立を防止するために、お互いを気にかけてあげる、街を元気にする活動もある。</li> <li>・重層的支援体制には相談支援、参加支援、地域づくりの3つの柱があり、支援される側も支援する側に回れる仕組みが重要。</li> <li>・専門職や地域資源をつなげ、多世代、多様な相談に対応できる重層的支援体制の構築が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の理解を進めるための方策が必要である。</li> <li>・見守りの役割分担や関係者が個人情報尊重しつつ、情報共有をして連携していく。</li> <li>・支援者で予防策を講じつつ、在宅生活の見極めを行っていく。</li> <li>・金銭管理の公的制度を正しく理解しつつ、制度利用に至るまでの支援をどのように構築していくかが要である。</li> <li>・家族等の認知症への理解が難しいケースでは、時間をかけて症状説明を行い、併養型の支援が必要である。</li> <li>・成年後見制度や日常生活自立支援事業等の事業内容をよく知り、必要な方により上手に繋げることが必要である。</li> <li>・支援拒否時は本人のこだわりや困りごとを活用した介入方法が有効。</li> <li>・見守りの具体的な役割決定には各機関の連携が不可欠。</li> <li>・認知症理解が進み、温かく見守る地域づくりを継続していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50代、60代の世代は支援がない。支援が受けられることを知らず、外部から隠され続けられた人もいる。年齢が上がると、自分のことは自分で解決するのが美德という考えで、支援を拒む。</li> <li>・学習・発達障がい、明らかなら早期発見・早期アプローチは進んだが、50代以上はまだ多くが隠れているため発見が重要。</li> <li>・地域づくりには必要だが、民生委員に頼り過ぎることは負担大。生活支援コーディネーター等と地域活動の担い手を育成することが重要。</li> <li>・生活保護開始時に子の生活能力を適切に把握し、保護が切れても再度必要になる可能性を見極める支援者の気づきが重要。</li> <li>・子の発達が未成熟な場合は障がい、担当と連携し、受診や就労の可能性を判断し必要な支援につなげることが重要。</li> <li>・ケアマネジャーだけに責任を負わず、多機関が包括的に関わることが重層的支援の本質。</li> <li>・申請主義が根強く残るなか、アウトリーチで手を差し伸べることを展開させる為の議論が必要。</li> </ul>

ブロック	中部(第4圏域)	東部(第5圏域)
事務局	長生園・サポートやお・成法苑	寿光園・信貴の里・中谷
テーマ (事例検証)	地域の災害対策と防災について	防災について
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民一人ひとりが自分の地域の災害リスクや利用可能な地域資源を理解する必要がある</li> <li>・避難運営マニュアルがあっても、実際の災害時には計画通りに進まないことが多く、地区防災計画の見直し・改善が求められている。</li> <li>・市で集約している要配慮者の避難リストや保健所での指定難病者対象の安否確認リストなど、有効に活用できないか。八尾市から発行されている防災マップの普及もしていく必要がある。</li> <li>・八尾市で想定される自然災害を地域住民が知ることで、日ごろからどのような備えが必要か意識することが望ましい。</li> <li>・避難所運営ゲームの体験から、ボランティアや行政だけでなく住民主体の共助体制の構築が重要であり、専門職の支援方法も検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○圏域住民の災害に対する危機感が薄いと感ずるため、防災意識を上げる必要がある。</li> <li>○災害時、高齢者が行動に移せるかが分からず、行動意識を変える必要がある。</li> <li>○身近に持ち出せる備蓄の内容が分からない。</li> <li>○八尾市の公的機関で取り組んでいる状況が分からない。</li> <li>○災害時に民生委員が助けに来てくれると思われている高齢者がいる。</li> <li>○防災に対する意識は、災害が起こったその時だけ高くなるが、すぐに意識が薄くなってしまふ。</li> </ul>
まとめ	<p>令和6年1月1日の石川県能登半島地震や南海トラフ地震への警戒など、防災意識の向上が急務。実際に八尾市で災害が起きた場合、各制度や対応するマニュアルは用意されているが、それを実際に地域住民がどこまで知り、実行できるのが課題。また、八尾市では市街地と山側で災害リスクの性質が異なるため、多様な災害に対応した意識づけが必要。</p> <p>災害について話す機会が少ないことから、テーマを設けたグループワークや八尾市危機管理課による学習会、避難所運営ゲームを通して避難所の体感して、体験談の共有などを行った。地域ケアケース会議委員のみでなく、地域の人に広げていくことが重要である。個々の想像以外にも、グループワークで新しい課題の発見にもつながった。それぞれの地区で、機関で、良い対策をしているが、それを共有できていなければ点と点のまま、災害時には連携が図れない。点を線に、面にしていくためにも住民と話し合う機会や、ICTを活用した意識づけなどに、取り組んでいく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八尾市危機管理課より、「八尾市で想定される南海トラフ地震時の被害や石川県の避難所の状況」説明があった。</li> <li>・社会福祉法人八尾隣保館から、大阪 DWAT の災害ボランティア活動や地域の普段からの繋がりの重要性について報告。</li> <li>・八尾市社会福祉協議会から、福祉避難所の協力協定や災害時支援について説明。</li> <li>・これらの説明や質疑応答を通じて、委員間で防災意識が高まった。特に高齢者の孤立問題、避難所の衛生問題、生活必需品の備蓄の重要性が共有された。</li> <li>・グループワークでは「避難の声かけのタイミングの難しさ」「平時から隣近所、地域との繋がりが大切」「電話は不通でも LINE は通じるので、高齢者にも説明し普及が必要」「薬は最低1週間分の予備を持つ」「無事旗活動が続ける地域では防災意識が高まっている」等の意見があがった。</li> <li>・委員が自組織に持ち帰り、防災意識や危機意識を高める。</li> <li>・「災害を我がごととして捉え、こannonはずではなかつた」と後悔する事がないように」と継続して防災意識を高め備える必要がある。</li> <li>・大規模災害に1人1人が備え、基本は「自助」だと伝えていく。</li> </ul>

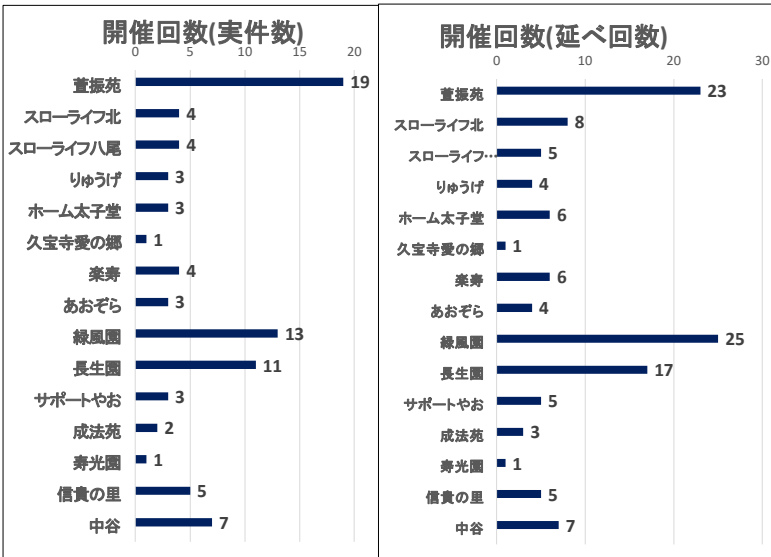
# 令和6年度地域ケアケース会議随時会議

R7年3月末現在

## 1. 随時会議の開催状況・内訳

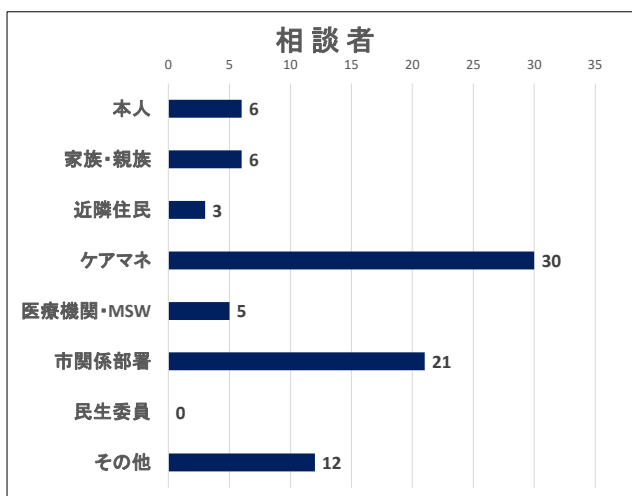
### 【開催回数】

	実件数/延べ数
萱振苑	19/23
スローライフ北	4/8
スローライフ八尾	4/5
りゅうげ	3/4
ホーム太子堂	3/6
久宝寺愛の郷	1/1
楽寿	4/6
あおぞら	3/4
緑風園	13/25
長生園	11/17
サポートやお	3/5
成法苑	2/3
寿光園	1/1
信貴の里	5/5
中谷	7/7
計	83/120



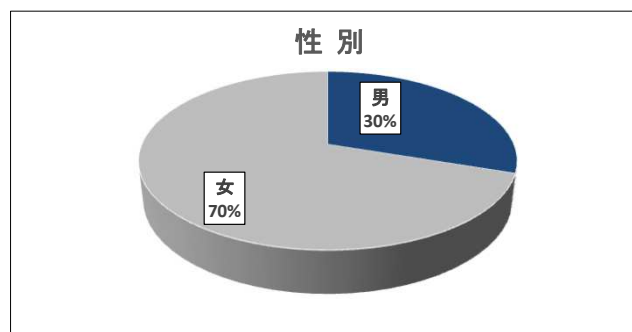
### 【相談者】

相談者	件数
本人	6
家族・親族	6
近隣住民	3
ケアマネ	30
医療機関・MSW	5
市関係部署	21
民生委員	0
その他	12
計	83



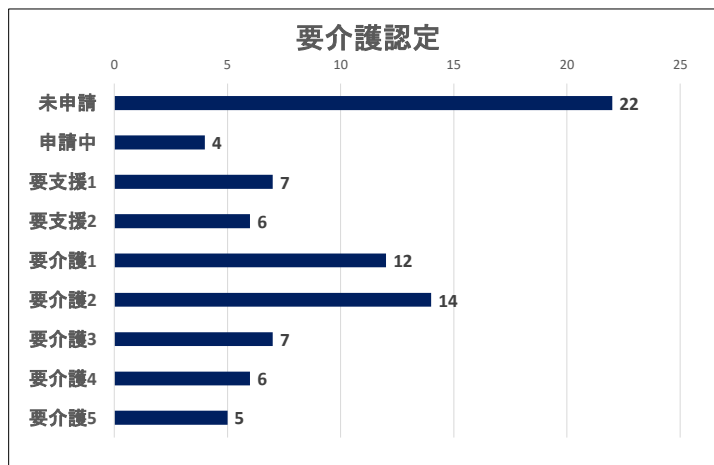
### 【性別】

性別	件数
男	25
女	58
計	83



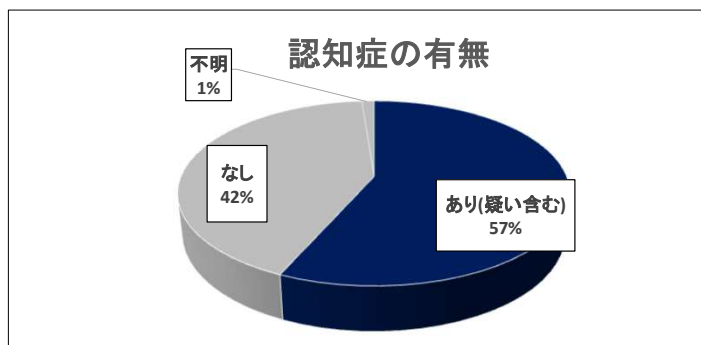
【要介護認定】

介護認定	件数
未申請	22
申請中	4
要支援1	7
要支援2	6
要介護1	12
要介護2	14
要介護3	7
要介護4	6
要介護5	5
計	83



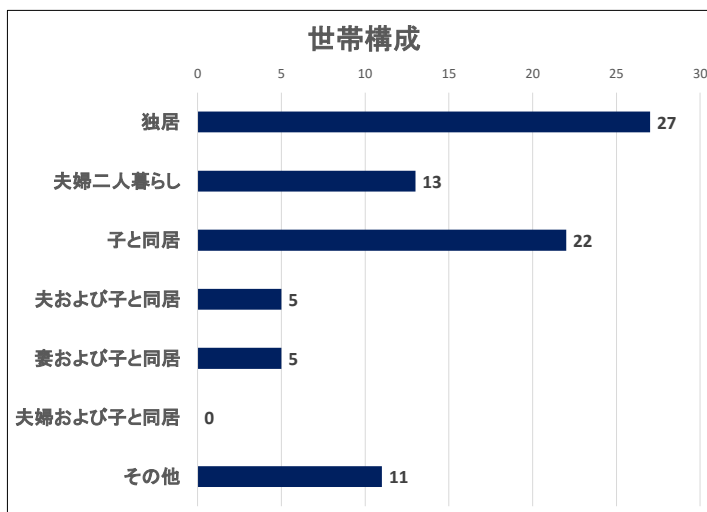
【認知症の有無】

認知症	件数
あり(疑い含む)	47
なし	35
不明	1
計	83



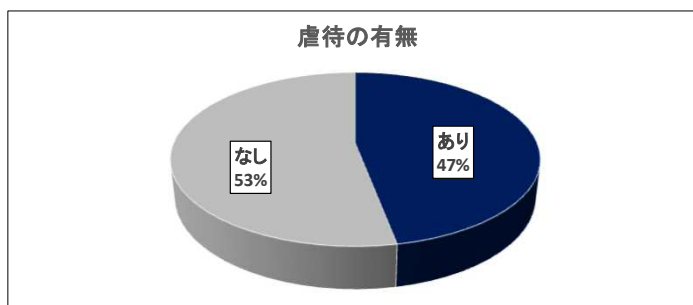
【世帯構成】

構成	件数
独居	27
夫婦二人暮らし	13
子と同居	22
夫および子と同居	5
妻および子と同居	5
夫婦および子と同居	0
その他	11
計	83



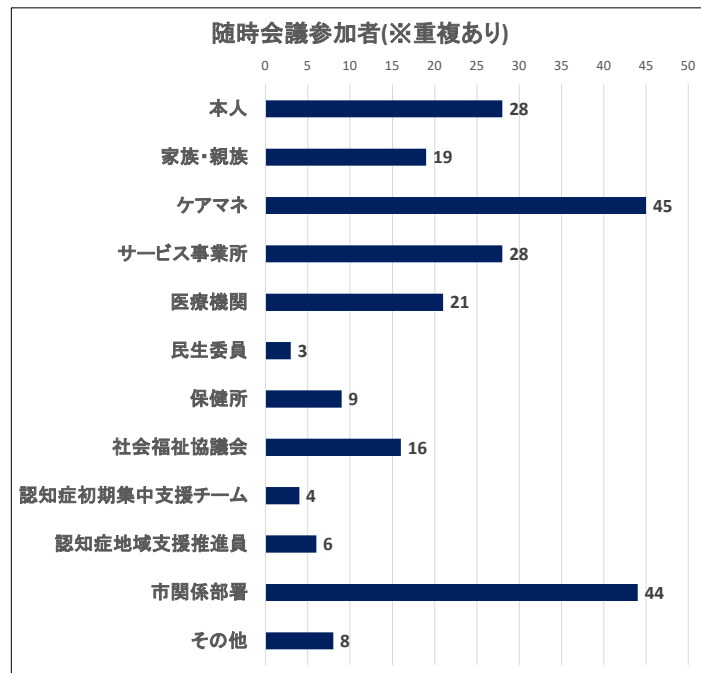
【虐待の有無】

虐待通報	件数
あり	39
なし	44
計	83



**【随時会議参加者 ※重複あり】**

参加者	件数
本人	28
家族・親族	19
ケアマネ	45
サービス事業所	28
医療機関	21
民生委員	3
保健所	9
社会福祉協議会	16
認知症初期集中支援チーム	4
認知症地域支援推進員	6
市関係部署	44
障がい福祉課	13
生活福祉課	14
高齢介護課	11
地域共生推進課	4
出張所等	2
その他	8
計(延べ件数)	231



**2. 随時会議の経年推移**

**【件数】**

	R4年度	R5年度	R6年度
随時会議	76	87	83
自立支援型	12	9	4
生活援助	5	1	3

**【回数】**

	R4年度	R5年度	R6年度
随時会議	105	94	120
自立支援型	2	4	4
生活援助	1	3	3

○高齢者虐待ケース全体評価会議(レビュー会議)

高齢者虐待情報を一元的に管理し、地域的な傾向の把握、ケースに共通する課題や地域課題の抽出、虐待防止に向けた地域づくりや体制を整えることを目指し、「レビュー会議」を開催している。

回数	レビュー会議を通して抽出された課題等
集合開催 20回 (各圏域にて 4回開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養護者の精神疾患に起因するケース、養護者となりえること自体が難しいケースが増えている。</li> <li>・ 養護者が本人の為と思ってしていることが、虐待に繋がっていることがあり、養護者支援もより必要である。</li> <li>・ 家族間が疎遠になっており、支援を受けられないケースが増えている。</li> <li>・ 家族間、夫婦間での行為は虐待と捉えるのか判断が難しいケースがある。</li> <li>・ 虐待レベル、判断基準が難しい。</li> <li>・ 高齢者が亡くなった後に、残された家族(虐待者含む)への支援についての引継ぎ、早期の支援体制づくりが必要ではないか。</li> <li>・ 措置対応など、市に早急な判断を求められるケースも増えており、通報時点で市と委託包括が同行することが望ましいと考えられるが、現状の人員体制では実現が難しい。</li> <li>・ 長年の家族関係に起因する虐待ケースに対し、支援機関が介入することが難しいケースが多い。</li> <li>・ 介護者に対する虐待の説明は、今後の本人・支援者との関係にも影響してくる為、デリケートな問題で難しい。</li> </ul>

まとめ

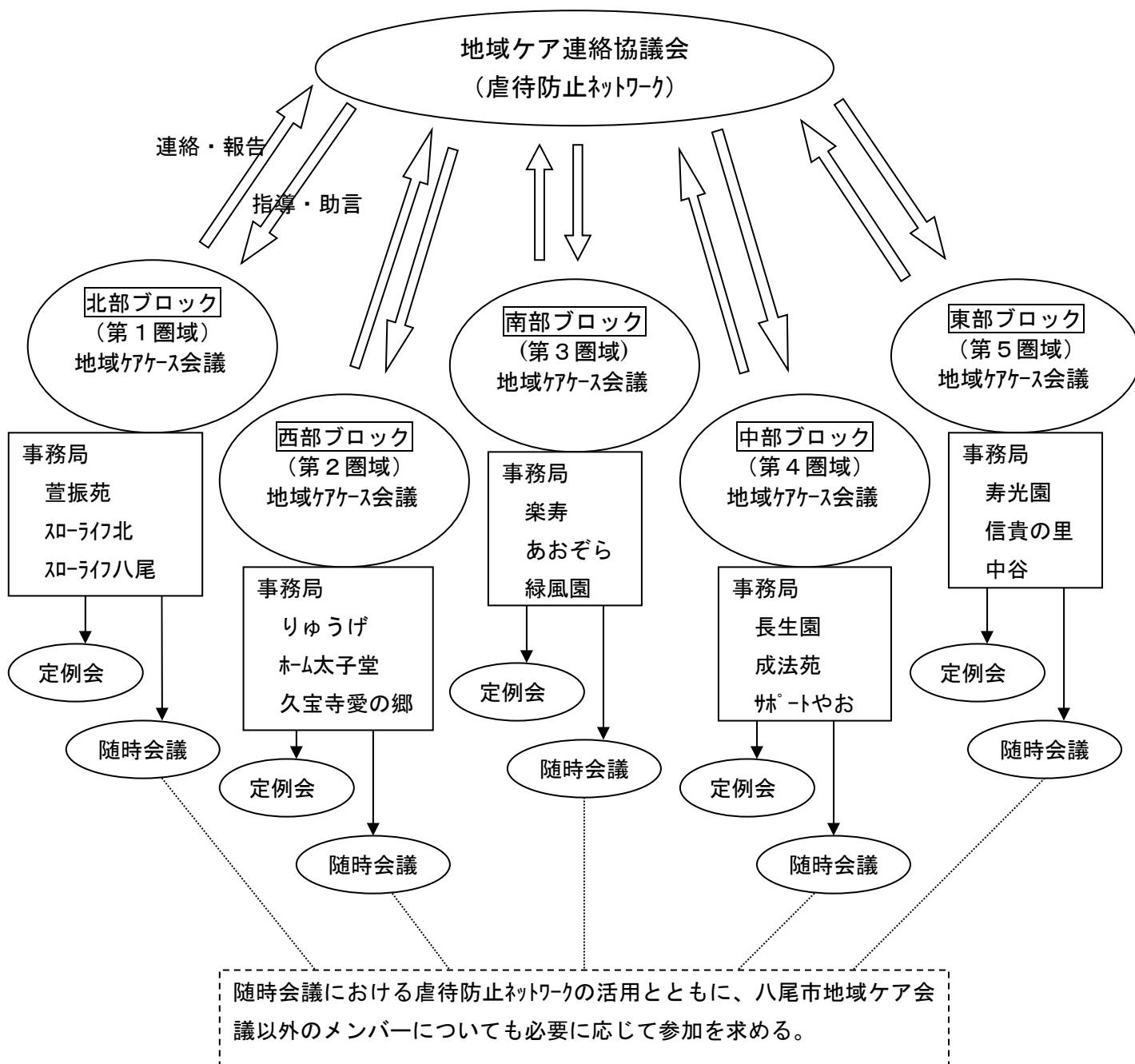
高齢者あんしんセンターが地域に出向き、関係機関等と意見交換を行うことで、地域の課題の把握に努めている。地域での会議内容で多いものは「介護予防」「地域連携」「認知症」といったテーマが多く、地域の関心の高さがみられた。また、高齢者虐待の傾向からは虐待発生の背景には、養護者の精神疾患や、養護者が65歳未満の際の関係機関との連携の難しさ等、複合的な多くの問題を抱えるケースが多くみられる。

このような課題から高齢者の支援にあたっては、高齢者あんしんセンターと関係機関との連携体制作りが必要である。保健・福祉・医療・及び地域との円滑な調整を図りながら、認知症支援にかかる関係機関との連携等を通じ、地域ケアケース会議を多職種連携の場としてより充実させ、高齢者をとりまく関係機関と連動した取り組みを検討していく。

令和7年度八尾市地域ケア会議体制（案）

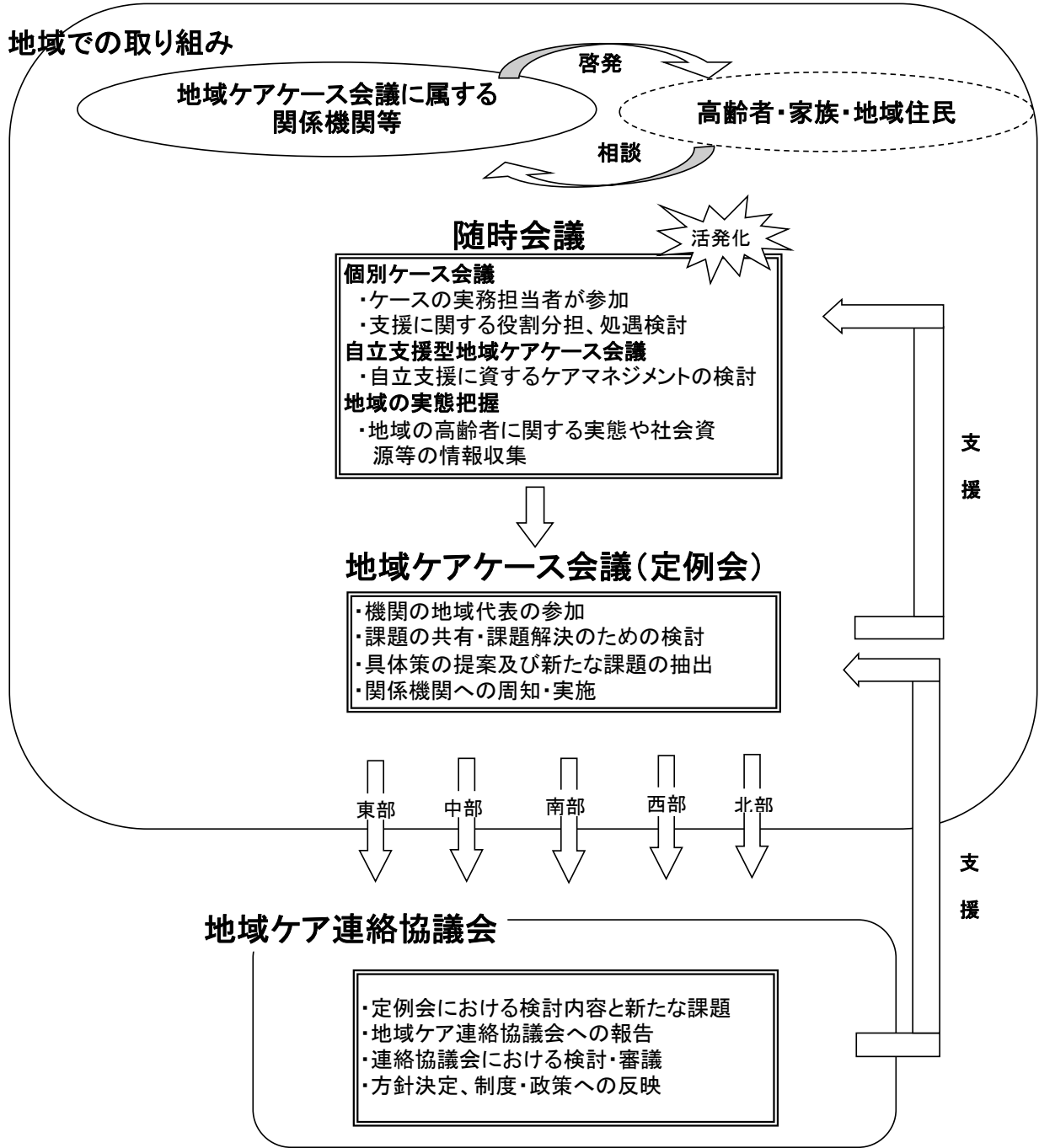
**八尾市地域ケア会議**

医師会・歯科医師会・薬剤師会・弁護士会・警察署・保健所・社会福祉協議会（地区福祉委員会）・民生委員児童委員協議会・訪問看護ステーション連絡会・居宅介護支援事業者部会・認知症疾患医療センター・消防署・地域包括支援センター連絡会・八尾市・その他必要な機関

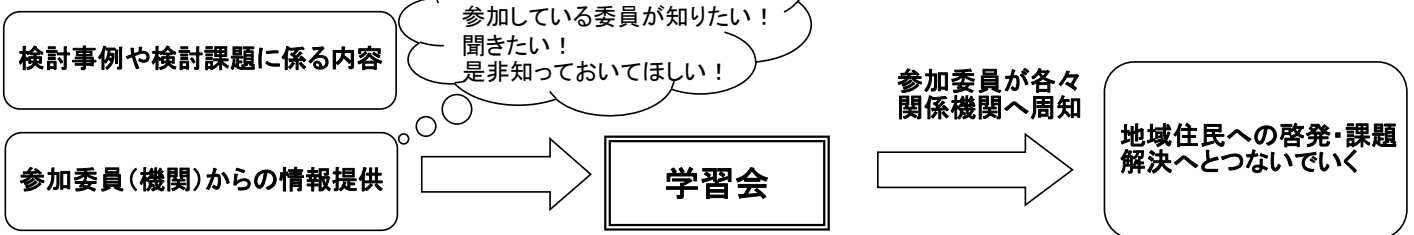


# 令和7年度 地域ケアケース会議の方向性

## 1. 地域の課題解決



## 2. 学習会



令和7年度 地域ケア会議 年間予定表

会議名	地域ケア 連絡協議会	地域ケアケース会議 定例会					地域ケアケース会議 随時会	
日程	年2回	各ブロック 年6回（隔月 第4木曜日）					随時	
事務局	八尾市健康福祉部 高齢介護課	北部	西部	南部	中部	東部	各ブロック事務局	
		(第1圏域)	(第2圏域)	(第3圏域)	(第4圏域)	(第5圏域)		
		萱振苑 スローライフ 北 スローライフ 八尾	りゅうげ ホーム太子堂 久宝寺愛の郷	楽寿 あおぞら 緑風園	長生園 成法苑 サポートやお	寿光園 信貴の里 中谷		
令和7年4月	第1回予定						随 時	
令和7年5月		令和7年5月合同定例会開催						
令和7年6月			26	26	26			
令和7年7月		24				24		
令和7年8月			28	28	28			
令和7年9月		25				25		
令和7年10月			23	23	23			
令和7年11月		27				27		
令和7年12月			25	25	25			
令和8年1月		22				22		
令和8年2月		第2回予定	令和8年2・3月合同定例会開催予定					
令和8年3月								

## 令和6年度 高齢者虐待について

R7年3月末現在

## 1. 養護者による虐待通報件数・内訳(在宅)

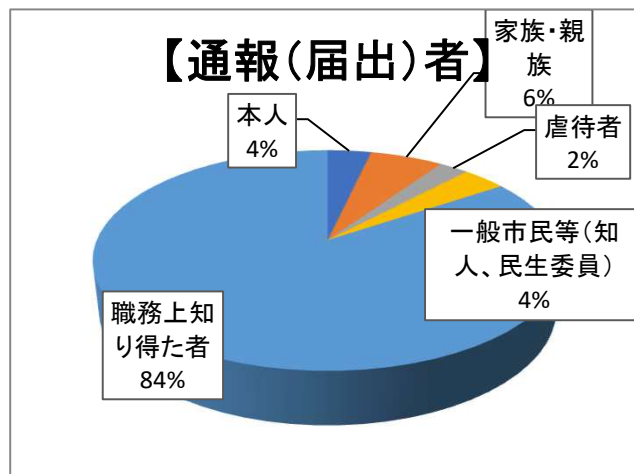
## ①通報(届出)件数・通報(届出)者

## 【通報(届出)件数】

	件数
通報(届出)	160
事実確認	160
うち、虐待認定数	89

## 【通報(届出)者】

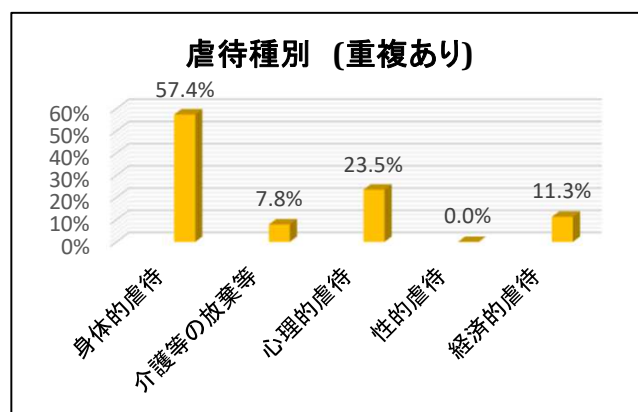
相談者	件数	比率
本人	6	3.6%
家族・親族	10	6.0%
虐待者	4	2.4%
一般市民等(知人、民生委員)	6	3.6%
職務上知り得た者	141	84.4%
ケアマネジャー	58	34.7%
行政職員	8	4.8%
医療機関	1	0.6%
警察	44	26.3%
その他	30	18.0%
計(※重複あり)	167	100.0%



## ②虐待有の内訳

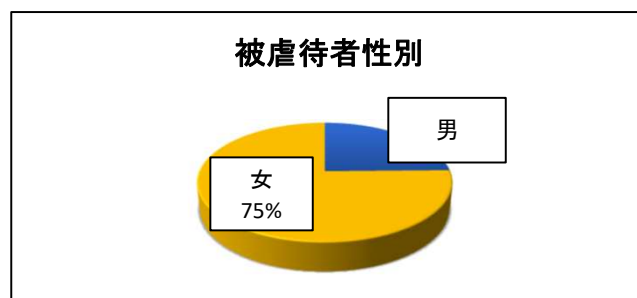
## 【虐待種別】(※虐待有89件の内訳)

相談者	件数	比率
身体的虐待	66	57.4%
介護等の放棄等	9	7.8%
心理的虐待	27	23.5%
性的虐待	0	0.0%
経済的虐待	13	11.3%
計(※重複あり)	115	100.0%



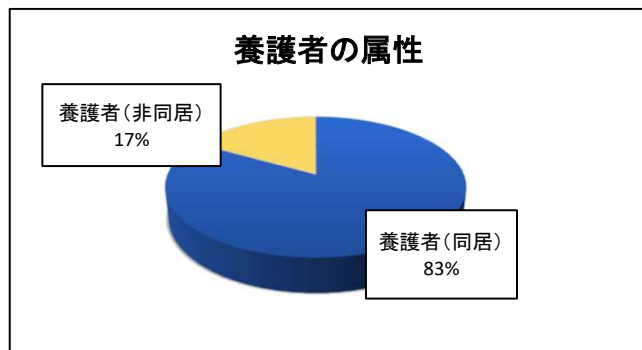
## 【被虐待者性別】

性別	件数	比率
男	22	24.7%
女	67	75.3%
計	89	100.0%



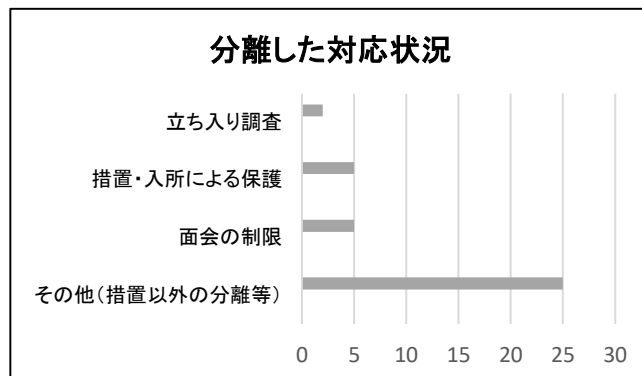
**【養護者の属性】**

属性	件数	比率
養護者(同居)	74	83.1%
養護者(非同居)	15	16.9%
計	89	100.0%



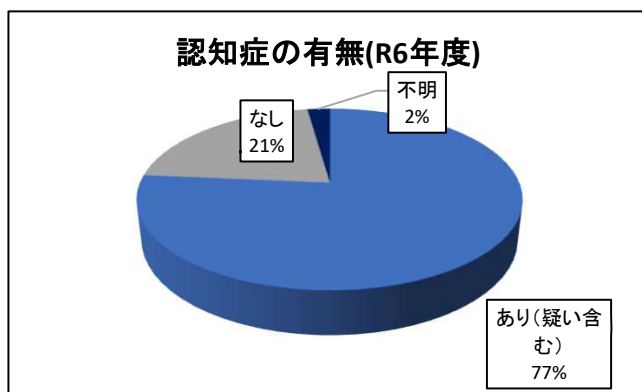
**【分離した対応状況】**

対応状況	件数
立ち入り調査	2
措置・入所による保護	5
面会の制限	5
その他(措置以外の分離等)	25



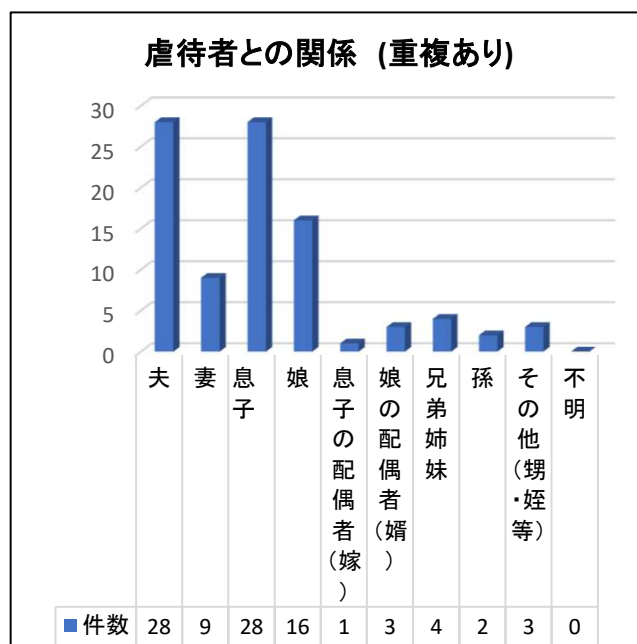
**【認知症の有無】**

認知症	件数			比率
	R4	R5	R6	R6
あり(疑い含む)	42	67	68	76.4%
なし	35	33	19	21.3%
不明	1	2	2	2.2%
計	78	102	89	100.0%



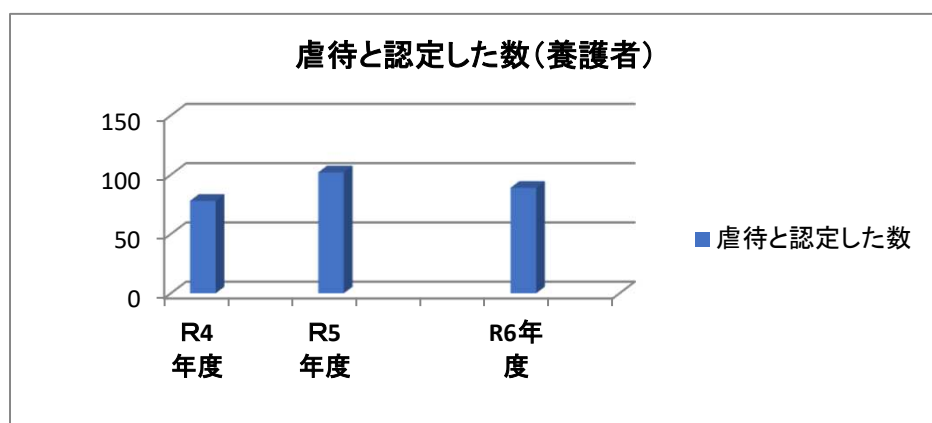
### 【虐待者との関係】(重複あり)

虐待者との関係	件数	比率
夫	28	29.8%
妻	9	9.6%
息子	28	29.8%
娘	16	17.0%
息子の配偶者(嫁)	1	1.1%
娘の配偶者(婿)	3	3.2%
兄弟姉妹	4	4.3%
孫	2	2.1%
その他(甥・姪等)	3	3.2%
不明	0	0.0%
計(※重複あり)	94	100.0%



## 2. 虐待通報件数及び認定数の経年推移

種類		R4年度	R5年度	R6年度
養護者	通報(届出)件数	139	161	160
	虐待と認定した数	78	102	89
施設	通報(届出)件数	12	17	17
	虐待と認定した数	6	3	4



## 3. 成年後見制度市長申立件数

市長申立件数	R4年度	R5年度	R6年度
	7	6	11

令和6年度  
虐待の発生に影響を与えたと思われる要因

	1位	2位	3位
身体的虐待	介護疲れ ストレス	高齢者本人の 認知症による 言動の混乱	世代間連鎖 (これまでの人間関係)
心理的虐待	高齢者本人の性格等	世代間連鎖 (これまでの人間関係)	介護疲れ ストレス
介護放棄	高齢者本人の認知症による言動の混乱 介護知識や情報の不足		
経済的虐待	精神疾患、もしくは精神疾患疑い (養護者)		低所得、無職 (養護者)

令和 6 年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書

令和 7 年度八尾市認知症地域支援推進員設置事業計画書

令和 6 年度八尾市認知症初期集中支援事業実施報告書

令和 7 年度八尾市認知症初期集中支援事業計画書

チームオレンジ活動について

令和6年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書

1. 地域におけるネットワーク体制の支援

実績	評価と今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 関係機関に対してPR 153回 (事業所・集会所等訪問、チームオレンジ活動など)</li> <li>• 地域ケア会議への参加 17回/2人 *合同定例会にて活動報告 ・“オレンジミーティング”</li> <li>*アルツハイマー月間イベント(9月)開催</li> <li>• オレンジパトロール(清掃活動編)</li> <li>• 認知症啓発上映会“オレンジランプ”</li> <li>• やおオレンジカフェ“まちがってもいいアフタヌーン”</li> <li>• 認知機能集団検査“ファイブ・コグ”1回</li> <li>• やおオレンジカフェ“まちがってもいいチャレンジ”(3月開催)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 関係機関へのPRに関してはオレンジティッシュや認知症ケアパスを個別訪問や行政機関、包括などで配架して啓発を行なうが限定的であり訪問機会が少なくなっている。</li> <li>• 地域ケア会議へ出席し、認知症の啓発を行ない、合同定例会ではチームオレンジ活動“オレンジミーティング”の活動報告を行うことができた。今後も定期的に活動報告を行いながら多機関、分野の理解を得れるようにする</li> <li>• アルツハイマー月間では、認知症本人が主体になって参加することができたことで認知症の啓発の意味が大きくなっている。ただ、今後は、認知症の啓発として多世代にできるような内容も検討しなくてはいけない。</li> <li>• 合同オレンジカフェでは、認知症本人がオレンジパートナーと共に珈琲焙煎から提供までを多くの参加者に行うことができた。認知症サポート医の参加や障がい施設、地域のボランティアグループなど開催毎に協力者が増えてきている。参加者も増えてきているので今後も定期的に開催を検討する。</li> <li>• 啓発上映会は、若年性認知症本人の実話の映画を上映した。平日の午前中にも関わらず多くの参加者があり、上映後は“よかった”の声を多く聞くことができた。若年性認知症にスポットを当てたが認知症本人の思い、生活の実態、家族、周囲の人の関わり方と意思を知る機会になった。今後も、認知症本人、家族の思いを伝える機会を検討していく。</li> </ul>

2. 地域における認知症高齢者やその家族を支援する相談支援や体制の構築

実績	評価と今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 相談件数 142件(延べ件数) 【内訳】家族(27)件、関係機関(115)件</li> <li>• <b>実人数 52人</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 若年性認知症の相談件数 49件</li> </ul> </li> <li>• 相談から医療機関と連携 5件</li> <li>• 地域包括支援センターと連携 39件</li> <li>• 認知症サポーター養成講座 29回 (キッズサポーター、地域展開型など)</li> <li>• 認知症高齢者声掛け体験 1回</li> <li>• 認知症オレンジパートナー養成研修1クール(2時間×2日間)</li> <li>• オレンジパートナーのつどい 2回</li> <li>• 認知症キャバンメイト・オレンジカフェ連絡会 各1回</li> <li>• 包括介護予防・家族介護教室 20回</li> <li>• 地域福祉デビュー講座(認知症理解) 2回</li> <li>• 介護予防サポーターステップアップ講座 2回</li> <li>• 介護予防サポーター養成講座 1回</li> <li>• 地域、団体への認知症(予防)教室・講座 9回 (高砂地区認知症教室、刑部地区いきいきサロン、柏村寿幸会、高美南小学校地区まちづくり協議会、高安西地区、シルバー人材センターきらめきフェスタ、障がい者団体連合会、久宝寺2,3町会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 認知症に関する相談に関して、最近では別居している両親の認知症のことで家族より相談が入ることがある。子供世代(40~60歳代)ではスマホ検索などでやおオレンジダイヤルに連絡しているので今後は周知方法についてもホームページやSNSを活用した方法も検討する。</li> <li>• おれんじ教室はMCI、認知症初期の方、地域の高齢者の集い場所として全圏域で定期的に行われてきている。参加者同士の繋がりができることで次の参加者への声掛けもしてくれている。今年度は大正地区で新たに開催し毎回多くの参加者がある。今後は参加者増に対する対応や新たな地域への展開ではオレンジパートナーの活用など検討していかなくてはならない。</li> <li>• 地域展開型の認知症サポーター養成講座は、毎月開催できた。少人数での開催であるが毎回ほぼ定員に達しており市民キャラバンメイトの活躍機会にもつながっている。参加者は、20~60歳代の参加者や介護者の参加者も増えている。今後は、民間企業や地域団体などへ開催の働きかけも重要。そして“新しい認知症観”を広く市民に啓発し認知症本人、家族が地域孤立しないような地域づくりを行っていく。</li> <li>• キッズサポーターは学校側、包括の協力にて、ほぼ予定通りの養成講座を開催できた。3年周期での開催になる為受講できない生徒への啓発は今後の検討になる。</li> <li>• 認知症高齢者声掛け体験を社協との連携で民生委員</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民講座（エーザイ株式会社主催）</li> <li>・おれんじ教室“脳りちゃん” 315回/9カ所</li> <li>・オレンジパトロール 30回（5地域）</li> <li>・オレンジミーティング 12回（1カ所）</li> <li>・おれんじルーム（認知症介護者交流会 8回/2カ所 *おれんじルーム参加者の話を“聞き書き本”として製作</li> </ul>	<p>の方対象にファミリーロードで今年度も実施、今回は八尾警察の協力もあり参加者からは“（認知症高齢者への）対応がよくわかった。”との感想がおおく聞かれた。地域の見守り体制構築に必要な体験になる為、今後は実施機会、場所を増やしていくように地域、関係機関に働きかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の新薬承認もあり、認知症の啓発、教室のテーマとして“MCI”の関心が高かった。エーザイ株式会社主催の市民講座に於いても175名と多くの参加者があった。</li> <li>・認知症サポーターで活動意欲のある方“オレンジパートナー”に45名登録者ができ、活動機会も定期的に確保で来ているが活動するパートナーは限定されている。活動機会の情報提供方法にも課題があるため、試行的に市のホームページの活用など行っていく。</li> <li>・オレンジパトロールは認知症本人の社会参加のきっかけとして活動は継続できているが参加相談ケースが少なくなっている。そのため、介護保険事業所とコラボを試行的に実施している。内容としては、土木管理課と連携し、清掃ボランティア活動を行っている。</li> <li>・おれんじルーム（認知症介護者交流会）を継続して開催していくことができた。認知症介護という同じ悩みを伝えあうことで“気持ちが高くなる”“自分だけではない”思いを持てる場となっている。今年度は、参加者のこれまでの介護の思いを“聞き書きボランティア”と連携し冊子をつくり、行政、各包括へ配布している。冊子の活用については検討余地が多い。家族交流会の必要性は聞こえるが、そのことと参加者が増えていくことは直結していないので継続性の難しさは見られる。</li> </ul>
---	--

### 3. 認知症ケア及び医療との連携体制構築に対する支援

実績	評価と今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症疾患医療センターと連携 14件</li> <li>・関係機関との会議に参加 90回</li> <li>・オレンジカフェ（認知症カフェ）開催 32回</li> <li>・中河内地区認知症をともに考える会 1回</li> <li>・認知症対応力向上研修実施 3回</li> <li>・認知症対応力向上研修実施（動画配信）</li> </ul> <p>居宅介護支援事業所向け：若年性認知症支援 施設職員向け：レビー小体型認知症についての基礎的知識と支援のポイント等 在宅サービス職員むけ：認知症介護の家族支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症疾患医療センターと定期的に認知症の地域課題や地域活動の情報共有を行うことで連携協力ができた。今年度、若年性認知症本人、家族の集い場所としての“夜カフェ”を開催している。若年性認知症本人、家族間の交流が行うことはある程度できた。運営方法は認知症疾患医療センターと継続的に検討していく。</li> <li>・オレンジカフェについては少しずつ再開カ所は増えてきているが全体的にみると約半数は休止状態が継続し再開の見込みは厳しい様子。新たに地域カフェの形態で新規に開設する場所もでてきているので居場所として連携していれるように働きかける。オレンジカフェとしては認知症本人がスタッフで開催していく形式を次年度は検討していく。</li> <li>・中河内地区の認知症施策関連の行政、専門職、認知症サポート医とともに意見交換することができたが次年度より年1回の開催に変更となる。今後も継続開催し、広域での支援体制構築を目指す。</li> <li>・認知症対応力向上研修については3部門でテーマ別に研修動画を視聴してもらった。次年度は3部門合同で集合研修を開催予定。テーマとしては“家族支援”として企画していく。</li> </ul>

#### 4. 事業の推進に関すること

実績	評価と今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大阪府認知症地域支援推進連絡会 1回</li> <li>• オレンジコーディネーター研修 1回</li> <li>• 大阪府高齢者虐待基礎研修 1回</li> <li>• 若年性認知症に関する研修 2回</li> <li>• 認知症地域支援推進員（現任者）、フォローアップ研修 3回</li> <li>• 各種研修、勉強会、講座、認知症疾患医療センター受診同席(OJT)等へ参加 54回</li> <li>• おおさか認知症希望大使委嘱式参加</li> <li>• 大阪・関西万博における認知症に関する情報発信事業企画委員会出席 3回</li> <li>• 大阪府域中核機関設置市連絡会 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大阪府の認知症地域支援推進員連絡会では各市町村での認知症施策の活動などの情報共有、意見交換は行っているがその場で終わっている。今後は、他市町村の推進員と連携する機会を作っていく。</li> <li>• 今年度はオレンジチューターとして、府内のオレンジコーディネーターに対してチームオレンジ活動に関する活動報告を行った。次年度以降も広域の活動を行い、より多くの活動に関する視点をもてるようにする。</li> <li>• 若年性認知症への支援体制について対応ケースが少ないこともあり、地域への働きかけ方も知識不足の為今後、大阪府の若年性認知症コーディネーターとの連携を行っていきながら知識の習得を行う。</li> <li>• 全国認知症地域支援推進員研修を通じて、多くの推進員との情報交換ができた。その中で、今後認知症本人の情報発信する機会を作れるように本人、家族、関係機関などへ働きかけていく。</li> <li>• 認知症鑑別診断の同席をすることで、診断前後の本人、家族の課題を抽出、診断に至るプロセスを知ることによって相談業務や地域への啓発方法に役立っている。</li> <li>• “おおさか認知症希望大使”の第一号として当市の認知症本人が委嘱された。活動として、大阪府域中核機関設置市連絡会の場で認知症の診断を受けた時の気持ち、生活状況や知ってほしいことをはなしています。また、大阪・関西万博の中で認知症啓発期間内のイベントの企画会議で意見交換をしています。今年度、本人の調子を確認しながら“認知症希望大使”として研修や講座の場で話をしていく機会を検討する。</li> </ul>

令和7年度八尾市認知症地域支援推進員設置事業計画書

法人名	医療法人 清心会
認知症地域支援推進員名	山本 哲也（専任）、岩代 茜（兼務）

①地域におけるネットワーク体制構築の支援	
令和6年度課題	令和7年度 計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議、研修、意見交換などを通じて多機関との交流機会を持ち、その中でチームオレンジに関する活動報告等ができたが、活動参加の連動性は少ない。</li> <li>・地域住民の啓発機会は、八尾市内中央部は多くあるが東西南北の端の地域へは不足している。</li> <li>・アルツハイマー月間ではイベントを通じて認知症本人の活動参加機会を持つことができた。イベント以外で認知症本人と地域の関係づくりの機会は少ない。</li> <li>・認知症ケアパスは、認知症本人、家族の意見を取り入れることができていない。また、冊子を医療、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者あんしんセンターを中心として連携を強化し、個別支援、地域支援体制を継続して構築していく。</li> <li>・地域ケア会議、専門職会議や地域の集まりへ参加や個別訪問等を通じて、地域課題を抽出し活動を提案する。</li> <li>・認知症に関する相談窓口“オレンジダイヤル”については広報やSNSの活用での周知、啓発を検討する。</li> <li>・チームオレンジ活動に関しては、高齢福祉以外の分野との協働できる機会を多く作る。</li> <li>・認知症本人、家族介護者と意見交換の場を作る</li> <li>・認知症ケアパスの普及啓発を教室、講座、イベント、訪問等で関係機関、地域住民に広く行う。</li> </ul>
②地域における認知症高齢者やその家族を支援する相談支援体制の構築	
令和6年度課題	令和7年度 計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座は、テキスト内容変更もあり講座内容の伝達は試行錯誤になった。</li> <li>・キッズサポーター養成講座は各小学校3年周期で受講する学年、しない学年がある。</li> <li>・オレンジカフェは、認知症本人が運営スタッフとして参加出来る形態のカフェを試行的に開催。今後、地域展開を行い、新たな認知症本人、家族への社会資源へつながる仕組みを構築していく。</li> <li>・オレンジパートナーの活動機会は増え、協力者も増えてきているが活動機会の周知、連絡方法など不十分でありパートナー間の情報格差が生じている。</li> <li>・“おれんじルーム”（認知症介護者交流会）を立ち上げたが周知、啓発が不十分であり参加者が限定的になってきている。</li> <li>・若年性認知症に関する相談件数も増えているが、社会資源不足、多機関との支援体制構築ができていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座に於いては“新しい認知症観”を徹底的に市民へ啓発する。</li> <li>・キッズサポーター養成講座の各小学校毎年開催に向け、行政、包括と協議を行う。</li> <li>・“大人も子供も”一緒に受講できる認知症サポーター養成講座を定期的開催できるように地域へ働き掛ける。</li> <li>・認知症本人が活躍するオレンジカフェを今年度は2箇所定期開催をできるように働き掛ける。</li> <li>・オレンジパートナーへの活動参加機会の周知方法を市のホームページを活用する。</li> <li>・認知症本人が“地域で役割を持つ”オレンジパトロールの清掃ボランティアを介護事業者と連携して展開する</li> <li>・おれんじルーム”（認知症介護者交流会）を傾聴ボランティアと連携して活動拠点を新たにつくっていく。</li> <li>・若年性認知症の社会資源を中河内地区での連携体制構築をできるように各市町村の担当者と検討していく。</li> </ul>
③認知症ケア及び医療との連携体制構築に対する支援	
令和6年度課題	令和7年度 計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症疾患医療センターと定期的に情報共有する場をもつことができています。協力体制を強化する。</li> <li>・認知症初期集中支援チームの会議に出席しケース共有しているが、地域課題抽出し社会資源の創出などにつながっていない。</li> <li>・かかりつけ医との連携体制構築はできていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症疾患医療センターと連携して若年性認知症本人、家族などが集うオレンジカフェの開催や研修企画を行う。</li> <li>・認知症初期集中支援チームとチームオレンジ活動が連動できるように定期的に情報共有していく</li> <li>・地域の医療機関へ認知症の相談窓口や役割等の周知、啓発を行っていく。</li> </ul>
④事業の推進に関すること	
令和6年度課題	令和7年度 計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政担当者と連携し、八尾市認知症施策に関する事業を進めてきたが予定を修正することが多くなったり、内容を詰め切れていなかった。</li> <li>・中河内地区認知症施策担当者として“認知症をともに考える会”を開催継続できているが開催回数減っている。</li> <li>・専門職向けに認知症対応力向上研修を行った。動画視聴の形で知識が一方通行になっている。</li> <li>・若年性認知症に関する映画上映を行い多くの参加があったが上映日時には検討余地が残った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政担当者と活動や取り組みの方向性や視点を共有できるように常に話し合いができるようにしていく。</li> <li>・中河内地区で認知症地域支援推進員同士の交流機会を定期的作り、認知症施策関連の情報共有、交換の機会を持ち支援共有できる体制を新たに作る働きかけを行う。</li> <li>・認知症対応力向上するため専門職同士で事例検討なども行えるような内容にしていく。</li> <li>・若年性認知症の支援ハンドブックを大阪府のワーキンググループの委員として作り上げていく。</li> </ul>

## 令和6年度八尾市認知症初期集中支援推進事業

### 実施報告書

業務内容	件数等
相談件数	22件
訪問件数	27件（実人数）
	134件（延人数）
モニタリング件数	26件
チーム員会議の開催回数	37件

令和6年度の評価・課題	
広報・普及啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>八尾市地域ケアケース会議や合同定例会の場に参加し、各関係機関と意見交換をすることで啓発してきたが、チーム員の兼任業務との兼ね合いから今年度は定期的な参加が難しく十分ではなかった。</li> <li>八尾市認知症高齢者声掛け体験に参加し、民生委員・児童委員と共に体験を行う中で初期集中支援チームについて啓発を行った。</li> </ul>
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の課題として、看護師の訪問が減ったことで身体疾患に対する全身状態の確認が不十分となったため、今年度はチーム員のみ（精神保健福祉士、公認心理師、看護師）で定期的なミーティングの場を設け、新規ケースに関しては早期に支援方針のすり合わせを行った。一般科への医療受診が途切れているケースも多く、バイタル確認などを看護師とともに行い、身体面の変化への気づきの感度をあげるよう心掛けた。</li> </ul>
適切な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療導入が必要なケースに対しては、保健所との連携が欠かせない場合がある。精神科病院への入院の必要性や、未治療の精神疾患のある高齢者に対する医療導入などについて、保健所職員と共に訪問し支援方針を検討するなどの連携を図った。</li> <li>地域住民や家族からの困りごとに対し、精神科病院への入院に安易に結び付けるのではなく、対象者本人の背景や現在の生活に至った経過にも目を向け、家族が本人と向き合う機会を作った。結果、家族の力が弱いとされていたケースもスムーズな医療受診・入院に至った。</li> <li>一方で支援に時間がかかり、行政側から期待されている対応件数には達していない現状もある。</li> </ul>
支援の終了	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援対象者の多くは、認知症の専門医療機関への受診・介護サービスの利用など、何かしらの終結を迎えることができている。しかし支援期間が半年を超えるケースも多く、「短期集中的な関わり」の難しさは継続的な課題でもあると言える。</li> <li>チーム員や地域包括、行政が連携して訪問、見守りを続けていても、支援者側の意図とは異なる方向で施設入所が決まるケースが複数あった。本人の意思決定がどこまでなされていたか、本人・介護者にとって納得のいく結果であったのか振り返りもできないまま終了となった。本人・介護者にとって適切な支援が何であるのか考えさせられた。</li> </ul>
モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>終了後のモニタリングはすでにつなぎ先の支援機関との関係構築が出来上がっている可能性もあり、チーム員の訪問などで対象者や家族に混乱をきたすことのないよう、サービス導入されたケースに関しては、つなぎ先の支援機関への電話連絡を中心とした。</li> </ul>
ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の介護サービスにはつながりにくいケースに関して認知症地域支援推進員と連携し、対象者本人に合った活動の相談を行った。</li> <li>認知症疾患医療センターからの相談による介入を試験的に行ったが、令和6年度は対象となるケースはなく、その必要性については改めて検討が必要になると思われる。</li> </ul>

令和7年度八尾市認知症初期集中支援推進事業

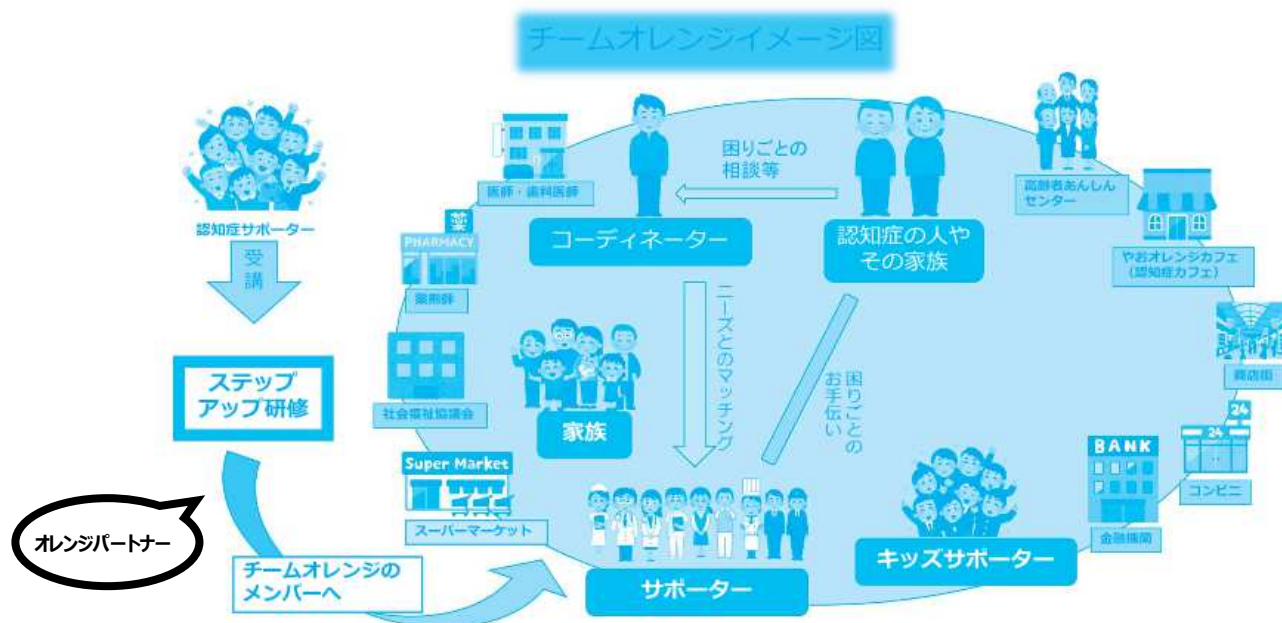
計画書

チーム名称		八尾市認知症初期集中支援チーム			
チーム設置場所		ヤオシ テンノウジヤ (住所) 八尾市天王寺屋6-59			
法人名		医療法人 清心会			
従事者の体制		管理者	氏名(職種等)	専任・兼務	
チーム員	1	○	松見 陽一( 精神保健福祉士 )	専任・ <input type="checkbox"/> 兼務	
	2		瀧尻 真実( 精神保健福祉士 )	専任・ <input type="checkbox"/> 兼務	
	3		新堂 真理子( 看護師 )	専任・ <input type="checkbox"/> 兼務	
	4		安田 智江( 看護師 )	専任・ <input type="checkbox"/> 兼務	
	5		花輪 祐司 ( 公認心理士 )	専任・ <input type="checkbox"/> 兼務	
	6		井上 裕章( 精神保健福祉士 )	専任・ <input type="checkbox"/> 兼務	
	7		徳 広子( 看護師 )	専任・ <input type="checkbox"/> 兼務	
	8		久保 香栄( 精神保健福祉士 )	専任・ <input type="checkbox"/> 兼務	
	9		岩代 茜( 社会福祉士 )	専任・ <input type="checkbox"/> 兼務	
	10		( )	専任・兼務	
チーム員 医師		認知症 サポート医	氏名	勤務医院 病院名称	専門医療 分野
	1	○	工藤 香	八尾こころのホスピタル	精神科
	2				

	令和6年度 課題	令和7年度 計画
広報・普及 啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と同様に、地域ケアケース会議や虐待レビュー会議への出席が限定的であった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム員を増員したことでこれまで参加できなかった地域の各関係会議への出席が可能となると思われる。特に地域ケアケース会議など三師会や民生委員、行政機関が集まる場には継続的に出席し関係を深めることで初期集中支援の啓発や普及に努めたい。</li> </ul>
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関わりの拒否が強いケースについては本人へのアプローチによるアセスメントがしづらく、家族からの情報が重要となるが、身寄りがない場合や、家族自身も認知機能の低下があり正しい情報の聴取が難しい場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人や家族からの聴取によるアセスメントだけでなく、生活環境や生活状況からもアセスメントできるよう努める。</li> <li>・どの職種であってもDASCをうまく活用し、介入時の認知機能の評価を行えるようチーム員で共有する。</li> <li>・より専門的な評価が必要な場合はこういった職種のチーム員（サポート医、看護師、公認心理士など）が訪問すべきか、よりの確な評価に結び付けられるようチームミーティングの場を活用する。</li> </ul>
適切な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援に時間がかかり、行政側から期待されている対応件数には達していない現状もある。チーム員スタッフの変更などもあり、事業の理解度や、困難とされるケース対応が出来るスタッフにばらつきがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム内のどのスタッフも各職種の特性を生かしながら、丁寧かつスピーディにケース対応できるようスキルの向上に努める。</li> <li>・主担となる新たなチーム員は初期集中支援に関する研修に積極的に参加する。</li> <li>・どのスタッフでも必要な対応が出来るよう、当チームのガイドラインの作成に着手する。</li> </ul>
支援の終了	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム員や地域包括、行政が連携して訪問、見守りを続けていても、対象者に関わる第三者の働きかけにより、支援者側の意図とは異なる方向で終了となるケースが複数あった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに第三者（家族・病院等支援機関）が対象者に関わる事が分かった時点で、支援の経過や意図などをこちら側から伝え、より丁寧な連携を心掛ける。</li> <li>・常に本人・介護者の意向がどこにあるのか理解できるよう関わり、必要に応じ終了に向けた支援計画を複数検討する。</li> </ul>
モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング時は主につなぎ先の主な支援期間への電話連絡を中心としているが、モニタリング後のチーム内での情報共有が不十分であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム員のみで行うミーティングの場において、終了後のケースについても情報共有し、再介入の依頼があった際にはスムーズに対応できる体制を整えておく。</li> </ul>
ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の疑いに対し介入した結果、認知症というよりは精神疾患を有するケースも少なからず見られる。地域や家族、本人の困りごとに対し、どう治療やサポートに結び付けられるかは地域包括単独では解決が難しい場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期集中支援の対象者になりえなかったとしても、地域包括が抱える困難ケースに対しては随時会議に出席するなど、共に考えるスタンスを持つ。また未治療の精神疾患がベースにあると想定されるケースに対しては本来の保健所の機能を発揮できるよう、保健所とも情報を共有し、協力関係の下で支援方針を検討したい。</li> </ul>

## チームオレンジ活動について

チームオレンジとは、認知症の本人やその家族を早期の段階から地域で支えるため、オレンジパートナー等が認知症の本人やその家族への支援を行う仕組みのことです。



＜出典：厚生労働省作成資料を元に一部改編＞

### 【認知症月間（9月）の取り組み】

<b>① ファイブ・コグ（高齢者用集団認知検査）</b>			
内容	「ファイブ・コグ検査」の実施		
日時	令和6年9月18日（水）		
講師	認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏	参加人数	22人
<b>② オレンジパトロール</b>			
内容	清掃活動		
日時	令和6年9月20日（金）	参加人数	29人
<b>③ 認知症啓発講演会上映会</b>			
内容	若年性認知症当事者の実話をもとにした映画「オレンジ・ランプ」の上映 八尾市での取り組み紹介		
日時	令和6年9月27日（金）	参加人数	109人
<b>④ まちがってもいいアフタヌーン</b>			
内容	認知症カフェイベント（ボランティアによる演奏、障がい者作業所によるお弁当等の販売）		
日時	令和6年9月27日（金）		116人
<b>⑤ 八尾図書館「認知症月間」展示 ※八尾図書館との共催</b>			
内容	展示コーナー（1階児童コーナー、2階大人向けコーナー）にて認知症に関する展示		
日時	令和6年8月30日（金）～9月25日（水）		

【その他】

① オレンジパートナー養成研修			
内 容	認知症の理解、「チームオレンジ」の説明、認知症高齢者声掛け体験の実施		
日 時	令和6年12月11日(水)、12月18日(水)		
講 師	認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏	参加人数	12人
② オレンジパートナーのつどい			
内 容	認知症月間(9月)におけるイベントの説明、協力依頼、今後の「チームオレンジ」活動について話し合い		
日 時	① 令和6年8月23日(金) ② 令和6年10月30日(水)		
講 師	認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏	参加人数	① 16人 ② 15人
③ 中河内圏域 認知症をともに考える会			
内 容	中河内圏域において、認知症支援に関わる支援者間での情報共有		
日 時	令和6年7月11日(木) Zoom 開催		
参加人数	27人(八尾市8人、東大阪市14人、柏原市5人)		
④ 認知症対応力向上研修			
内 容	認知症本人主体の介護を行い、認知症の人の対応力を向上するための研修		
日 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設サービス事業者向け：令和6年10月10日(木)～10月31日(木)</li> <li>・居宅介護支援事業者向け：令和6年11月11日(月)～11月29日(金)</li> <li>・居宅サービス事業者向け：令和6年12月9日(月)～12月27日(金)</li> </ul> (YouTube 配信)		
講 師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法人清心会 八尾こころのホスピタル 柏井 洋平 医師</li> <li>・大阪府若年性認知症支援コーディネーター 中牟田 なおみ 氏</li> <li>・医療法人清心会 八尾こころのホスピタル 谷口 かおり 認知症看護認定看護師</li> </ul>	視聴回数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設サービス事業者：111回</li> <li>・居宅介護支援事業者：125回</li> <li>・居宅サービス事業者：181回</li> </ul>
⑤ オレンジカフェ連絡会			
内 容	オレンジカフェ運営に関する情報交換や今後の展開について話し合い		
日 時	令和7年2月18日(火)		
講 師	認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏	参加人数	10人
⑥ キャラバン・メイト連絡会			
内 容	キャラバン・メイトの活動報告や活動についての話し合い		
日 時	令和7年2月28日(金)		

講師	認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏	参加人数	25人
⑦ 認知症本人大使「おおさか希望大使」委嘱			
内容	地域版認知症希望大使の委嘱		
委嘱式日時	令和6年9月17日(火) ※支援者として認知症地域支援推進員 山本 哲也氏が同席	人数	1人

※全ての活動は、認知症地域支援推進員が中心となって実施しています。

令和6年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書  
令和7年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施計画書

令和6年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書（社会福祉法人 八尾市社会福祉協議会）

1. 人材発掘・活動の担い手づくり、社会資源・地域資源の発掘

実績	評価と今後の課題
<p>(1)シニア向け地域福祉オリエンテーション（2回） （参加者：1回目27名、2回目20名） (2) ガイドブックツアー（2回） （参加者：1回目11名、2回目11名） 「まずは何かをしてみたい」と思っている方を対象に八尾市の活動や情報が載ったガイドブックを配布し、情報提供を行った。そのガイドブックに掲載されている場所を見学するガイドブックツアーも実施した。今年度は、初めて昨年のガイドブックツアー参加者に担い手として参加してもらった。</p> <p>(3)シニア向け地域福祉デビュー講座（2クール） （参加者：1回目11名、2回目14名） これから何かを始めたいと思っている方を対象に、全6日間の講座を2クール実施した。各回にグループワークを設け、受講生同士で交流が深まるよう工夫を行った。</p> <p>(4)シニア向け地域福祉リーダー養成講座 （参加者：8名） 現在ボランティア活動や地域福祉活動を実施している方を対象に、全5日間の講座を実施し、地域でリーダーとして活動していくのに必要な知識を学んでもらった。</p> <p>(5)地域福祉デビュー講座受講生交流会 （参加者20名） 地域福祉デビュー講座の受講生(令和4年～6年度)を対象に交流会を実施。受講後、どんな活動をしているのかを情報交換とともに、まだ活動には至っていないと悩んでいる受講生に対し、交流会を通して活動に結び付けることができるように後押しを行った。</p>	<p>(1)(2)シニア向け地域福祉オリエンテーション参加者が次につながるように、期間をあけずにガイドブックツアーを開催できた。それにより参加者同士の繋がりが生まれ、地域内でも繋がりをしている。</p> <p>(3)各回にグループワークを設けたことで、初日から参加者同士が打ち解けやすくなった。講座終了までに参加者同士での関係が構築され、新たな人脈育成にも繋がった。</p> <p>(4)リーダーとしての知識を学んでもらい、地域でのリーダー役を増やすことができた。オリエンテーションや講座参加者が、受講後に何か活動に繋がっているのかを把握に努め、活動に参加していくための支援を行う。</p> <p>(5)令和4年～5年度の受講生は介護予防サポーターとして活動をしていたり、他にもいろんなボランティア活動や趣味活動をされていた。交流会を通して、横のつながりをつくることができ、他の参加者が活動していることを参考に自身も試みようと感じたりとお互いに刺激を受けているようにも感じた。参加者からも「また交流会を開いてほしい」「様々な活動を知ることができ良かった」など好評をいただく。今後も継続して、交流会など受講生が集まる機会を作り定期的な情報交換の場や活動の後押しをしていく。</p>

2. 他機関連携による取組み

実績	評価と今後の課題
<p>(1)サードプレイスバスケット（2回） ・運動を通して、新たな仲間づくりや健康増進、介護予防を目的に、株式会社NKS-405と連携し、ウォーキングバスケットボール体験会を実施した。 1回目：10月3日、参加者：8名 2回目：12月10日、参加者13名 ・シニア向け地域福祉オリエンテーション講座受講生や、地区福祉委員会、民生委員児童委員協議会、社協HP等、幅広く市民へ広報周知を行った。 ・1回目の体験会終了後に、株式会社NKS-405と2回目の体験会に向けて打合せを重ねた。1回目の反省点や参加者の声を企業に伝えながら、より高齢者が楽しく参加できるように相談を行った。</p>	<p>当日の参加者からは、「久しぶりに体を動かすことができ楽しかった」「バスケットが初めての経験だったが高齢者でもできる内容でよかった。」と好評をいただいた。 2回目の体験会については、1回目から参加してくれた人から、「1回目より改善があり楽しめた」との声があった。 しかし、今回の体験会は、幅広く広報をしたものの参加者が少なかった。「また体験会をしてほしい」との声もあるが、ほとんどの参加者は、場所が遠く行くのが大変との声が多かったため、実施場所の検討も必要である。 今後も企業等他機関と協力しながら、居場所づくりや参加できる場づくり等に努める。</p>

### 3. 関係者によるネットワークの構築

実績	評価と今後の課題
<p>(1) 第1層協議体：計2回            高齢介護課との打合せ：6回            協議体事前打ち合わせ(座長)：2回</p> <p>(2) 第2層協議体            全地区共通で、ワークショップ テーマを「○○地区の良いところ、もっとこんな○○があったらいいな!」とし、地域の魅力、ちょっと困っていること、あったらいいなの意見を出し合ってもらった。</p> <p>① 長池地区            実施日：8月9日、参加人数：30名            コロナの流行により止まっていた活動を委員長と打合せを重ねワークショップを再開した。</p> <p>② 八尾第二地区            実施日：6月18日、参加人数：12名            ワークショップの中で出た「子どもや高齢者が気軽に集える喫茶ができればいいな」という声から、新たに喫茶活動(ゆるりカフェ)が始まった。            →ゆるりカフェ            9月7日、参加人数：39名            1月11日、参加人数：19名</p> <p>③ 亀井地区            実施日：9月26日、参加人数：16名</p> <p>④ 他地区でもワークショップを実施            (高砂地区、西郡地区、亀井地区、大正北地区、高美地区、南高安地区)            6地区でもワークショップを開催し、みんなでできることややってみたいことの話合いの場づくりを行い、各地区で取り組みを進めている。</p>	<p>(1) 協議体委員相互の地域課題や連携強化を目的に活動拠点など社会資源についてや情報発信の方法に関するグループワークを実施した。今後、委員より出た意見を参考に事業に活用していく。</p> <p>(2)            ① 長池地区では、「男性高齢者が集える場、子どもの学習支援がしたい」等の意見があった。ワークショップでは、若い人が参加しやすい時間帯での開催としたことで、小学校 PTA 役員の参加に繋がった。            下半期では、新たな活動拠点について、委員長、役員と話し合いを行い、委員長から自宅活用の提案や、お寺や府営住宅集会所、知り合いの美容院のスペース活用なども候補として挙げた。委員長の自宅については、光熱費や修繕費などのハード面をどうするかが課題となっている。            今後、ワークショップなど話し合いの場を通じて活動拠点となる社会資源の把握、活用を検討していく。</p> <p>② 八尾第2地区では、喫茶立ち上げに向けて、地域住民と喫茶の協議を重ね、高齢者あんしんセンターとも連携を図りながら取り組みを進めた。            下半期では、2回目のゆるりカフェを1月11日に実施した。参加者へ地域の高齢者の現状や困りごと、担い手づくりについてのアンケートを実施し、17名の回答があり、アンケートでは「カフェ等のお手伝いができる」と4名答えてくれた。今後の地域課題解決に向けてアンケート結果を担い手と共有していく。</p> <p>③ 亀井地区では「新しい人が地域活動に参加しやすい環境をつくっていききたい」等の意見があった。地区福祉委員長と振り返りを行い、親子向けのイベントを企画してつながりをつくっていききたいとなった。企業も多くあるという強みも活かし、地元企業と連携したイベントの企画ができるかを検討している。</p> <p>④ 6地区からも子どもや若い世代との交流を望む声が多く挙げた。            ワークショップの中で出た課題ややってみたいことを地区内で共有し、課題解決に向けて取り組みを進めていく。</p>

令和7年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施計画書（社会福祉法人 八尾市社会福祉協議会）

長期目標	高齢者が、住み慣れた地域で安心して支え合って暮らし続けるための、地域の中の身近な助け合いの機会を増やしていくとともに、福祉分野に限らず専門職が地域活動と接点が増えるような場（協議体）の設定に取り組む。
短期目標	地区福祉委員会と協働し、ワークショップを開催するなど、各日常生活圏域に1か所の協議体づくりに努める。 また、市域全体の高齢者を支える活動に関する情報を集め、ホームページやインスタグラムなどを活用し、広く市民に情報提供を図る。

1. 地域資源の把握

課題	計画・目標
ガイドブックツアーを開催してきたが、参加者が効果的に地域活動に繋がっていない現状がある。	これまで、ガイドブックツアーや地域デビュー講座を修了した市民の交流の場を設置し、地域福祉活動の情報提供や活動者の組織化を図る。

2. 地域資源の開発

課題	計画・目標
既存の公的な福祉サービスだけにとどまらず、分野を超えた企業やNPO・市民活動団体など新たな地域福祉活動の担い手との連携をさらに模索していく。	昨年度、介護予防活動の一環として、地元企業と連携した「ウォーキングバスケットボール」などの事例を幅広く展開していきたい。 また、地域資源だけではなく、新しい地域福祉活動の担い手となる人的資源の開発を進めていく。

3. 関係者によるネットワークの構築

課題	計画・目標
高齢者あんしんセンターなどとの関係機関との連携は図れているが、制度の狭間の課題などに対する福祉サービスの開発までには至っていない。	制度の狭間の課題として、今年度取り組む「見守りサポート事業（仮称）」を生活支援コーディネーターとして一翼を担う。 また、事業設計にあたり、高齢者あんしんセンターをはじめとする関係機関との意見を反映するためにヒアリングなどを行う。

4. 生活支援や介護予防の担い手の養成

課題	計画・目標
地域活動への関心を促すために、シニア向けオリエンテーション参加者に他講座を紹介して講座に連動性を持たせ、参加者が計画的に参加をできるように工夫を行ったが、終了後に地域活動など次の行動に繋げることができなかった人もいた。 講座に占める定年を迎えたシニア世代の参加者数が少なく、開催場所、時間、内容などのシニア世代のニーズの把握が必要である。	昨年度初めて開催したOB交流会を、今年度より「養成講座OB交流会」と名称を変更し、講座終了後の情報交換、地域活動の紹介、活動へのコーディネートを継続して実施する。 また、可能ならば参加者の組織化を行う。